

風土記の丘の花だより 182

今、そしてこれから見られる植物（2023年4月25日）



前の号で紹介したジュウニヒトエの写真が、全体の姿ではなく、花を大きく写しているの、まるでキランソウのように見えてしまっています。それで、全体はこんな姿だよ、というような写真を載せることにしました（左）。キランソウとは全然違うでしょ。ちなみに、これに似た園芸植物セイヨウジュウニヒトエ（右）は柳川家に行く手前の立て札の近くに咲いています。色が濃くて園芸植物らしくて、それはそれできれいですね。



安藤塚にムラサキサギゴケが咲いています。コケと付きますが、もちろんコケ植物では有りません。コケのように地面に這え広がる草ということです。本来こんな所に生える草ではありません。田んぼの畦などに群生することが多いのですが、田んぼの土が何かの拍子にここまで運ばれてきたのでしょうか。とてもきれいで存在感のある花ですね。コケの名にふさわしく、年々増えて、生息範囲を広げてきているように思います。



同じく安藤塚にオヘビイチゴの黄色い花も咲いています。植物の名前で「オ」が付くのは少し大きめの場合が多いのですが、これはヘビイチゴよりも小型です。また、ヘビイチゴは葉が3枚一組ですが、これは5枚一組です。（3枚一組のこともあります）ヘビイチゴの実は大きく、真っ赤に熟しますが、オヘビイチゴの実は小さく赤くもならず、実ったのかどうかもわからないほどです。ちなみに、ヘビイチゴには毒があると言う人もいますが、まずいだけで、毒はありません。



道ばたに、盛り上がったように一面に生えるのはキクムグラです。よく見ると、先にとっても小さな花が咲いています。なんとかムグラという名前はアカネ科の草に多く、風土記では数種類見ることができます。そのうち最もよく見かけるのはヤエムグラですかね。それと比べるとキクムグラはとても小さくて葉も丸っこいです。ムグラとは漢字では「葎」と書き、覆い尽くすように群がって生える草のことをさします。



フジの花がきれいです。正しくはノダフジといます。フジの名所、大阪の福島区野田にちなんで。今ブームの牧野富太郎が命名したそうです。そのフジの花の房を見ると、つぼみにしては大きく膨らんで、白く丸いものが目に付きませんか？じつは、「虫こぶ」なんです。虫こぶは難しい言葉で「虫癭・ちゅうえい」といいます。小さな虫が植物に産卵などの刺激を与えると、その植物の細胞が異常に分裂し、独特の形状に膨らむのです。フジに限らず様々な植物に、様々な虫が虫こぶを作ります。 松下

